

〒九八五―八五一〇 塩竈市一森山一番一号
 電話 〇二二(三六七)一六一(代)
 ファックス 〇二二(三六五)五五三〇



なまこたけ



JR仙石線(本塩釜駅)	← 車 5 分 徒歩(東参道経由)15分 →
JR東北本線(塩釜駅)	← 車 10 分 徒歩(表参道経由)25分 →
三陸自動車道(利府中IC)	← 車 5 分 →

なまこたけ

しおがまさま

志波彦神社
鹽竈神社

参拝のしおり

仙台市の北東約十六km、平安の昔奥州へ下向の都人を魅了し、かの松尾芭蕉も訪れ絶賛した

『千賀の浦ちがうら(松島湾)』の側の小高い丘『一森山いちもりやま』の地に両社をお祀りし、長い歴史を物語る境内からは、

遠くは牡鹿半島・金華山、近くは「日本三景」の一つ『松島』の島々が望まれます。

松島湾は、暖流と寒流の合流点で、海上の金華山沖は世界三大漁場の一つといわれる魚の宝庫です。

また、約二十八ヘクタール(二十七町歩)の境内は、植物の分布上、学術的にも南北植物の限界として重要視され、

「鹽竈ザクラ」・「多羅葉たらよう」など地生・栽植あわせおよそ五百種にもおよぶ植物が繁茂しているほか、

キジ・オナガ・ツグミなどの野鳥も多く棲息しております。

四季折々の花々が、荘厳な社殿と美しく調和する『一森山』の御神域を、

地元民は親しみをこめて『お山』と称し、御社名は全国的にも『しおがまさま』と尊称されております。



志波彦神社

当神社は、東山道より陸奥鎮守府を兼ねた多賀城国府（九州太宰府と同等の政庁）に入る交通の要所、陸奥国宮城郡岩切村（現在、仙台市宮城野区岩切）冠川の畔に鎮座され、『延喜式内名神大社』として朝廷の尊信ことのほか厚いものがありました。明治四年（一八七二）、国幣中社に御治定され、明治天皇の御思召により、明治七年（一八七四）、



志波彦神社

鹽竈神社の別宮本殿に遷祀されました。その後、国費により社殿を御造営することとなり、昭和九年（一九三四）、現在地に工事を起こし、明治・大正・昭和の神社建築の粋を集めて竣工、昭和十三年（一九三八）、御遷座申し上げました。本殿・廻廊・幣殿・拝殿いづれも朱黒極彩色漆塗り、本殿は三間社檜皮葺き流造、拝殿は銅板葺き入母屋造で、昭和三十八年（一九六三）、神門を含め塩竈市の文化財に指定されました。

鹽竈神社

当神社の創建の年代は明らかではありませんが、武甕槌神と経津主神が陸奥国を平定した時に、両神の道案内をした鹽土老翁神がこの地に留まり、人々に塩づくりを教えたことに始まると伝えられます。

当神社は、平安時代初期に編纂された『弘仁式』の主税帳に「鹽竈神を祭る料壹萬束」と記され、当時陸奥国より六拾萬參千束の正税



鹽竈神社別宮

が徴収されていた時代に、この様な厚い祭祀料を受けていたことが知られ、陸奥国最大の神社として代々の領主の精神的支えとなっていたと思われます。特に伊達家の崇敬は厚く、伊達氏が当地を治めた江戸時代以降明治時代に至るまで、歴代の藩主は、『大神主』として祭事を司るとともに社領・太刀・神馬などを寄進されました。なお、元禄四年（一六九二）には正一位を贈られ、明治七年（一八七四）、国幣中社に列格しました。

現在の社殿は、伊達家四代藩主綱村公が元禄八年（一六九五）、社殿の造営計画をたて工事に着手され、九年後、五代藩主吉村公の宝永元年（一七〇四）に竣工しました。別宮・左宮・右宮の三棟の本殿はいずれも三方を勾欄のある縁をまわし、装飾をおさえた木造素木三間社檜皮葺き流造、一方、別宮および左右宮の二棟の拝殿は古風で華やかな様式の朱漆塗銅板葺き入母屋造と好対照なたずまいを見せております。さらに、南向きの左宮と右宮、松島湾を背にした西向きの別宮の三本殿と二拝殿の社殿に加え、門（唐門）・廻廊・隨身門（楼門）が整然とならぶ構成は、江戸中期の神社建築としては類例がなく、その歴史的価値が認められ、平成十四年（二〇〇二）に本殿以下十四棟の建物と石鳥居一基が国の重要文化財に指定されました。なお、宝永期以降二十年に一度の式年遷宮の制度が設けられ現在に至っております。

境内・境外の末社

境内には、神明社・八幡社・住吉社・稻荷社、また、境外の市内本町には、御釜神社・牛石藤鞭社をお祀りしております。御釜神社では、毎年七月四日から六日にかけて製塩の故事をつたえる『藻塩焼神事』：昭和五十四年（一九七九）宮城県無形民俗文化財指定を齎行し、出来上がった荒塩は七月十日の鹽竈神社の例祭にお供えされます。また、和歌の名所として知られる離島（市内新浜町）には、曲木神社をお祀りしております。なお、離島は昭和四十一年（一九六六）、塩竈市の名勝に指定されました。



御釜神社

文化財

建造物のほかに、境内では文治神燈・文化燈籠・日時計などの文化財を見ることが出来ます。



日時計



文治神燈



文化燈籠

境内の植物

境内では、国の天然記念物「鹽竈ザクラ」や、中国渡来の蠟梅をはじめ、多羅葉・十月桜・冬山椒・紅羊歯・松島世・赤日桜など珍しい植物が見られます。

●鹽竈ザクラ

堀河天皇御製
あけくれにさずな愛で見る鹽竈の
桜の本に海人のかくれや

古くから歌にも詠まれた著名な桜です。サトザクラ系の八重桜で、例年五月初旬に満開になります。

鹽竈ザクラは昭和十五年（一九四〇）、国の天然記念物に指定されました。当時の樹は枯損して現存しませんが、苗木の育成に努め、保存処置がみのり、境内の鹽竈ザクラが「鹽竈神社の鹽竈ザクラ」として昭和六十二年（一九八七）、再び国の天然記念物に指定されました。

●鹽竈神社の多羅葉

モチノキ科に属する亜熱帯植物の多羅葉は、雌雄異株の常緑高木で、主に近畿以西に自生しており、植栽可能な北限地帯でこのような大木は珍しく、昭和四十五年（一九七〇）、宮城県の天然記念物に指定されました。

鹽竈神社例祭



みなと祭



主たる年間祭祀表	
1月	1日 祭元始 3日 明分元 14日 節分 2月 立春 11日 折手 17日 帆手 3月 29日 志花祭 4月 4日 上旬 御田植祭 5月 30日 大蔵式 6月 4日 上旬 藻塩焼神事・御釜神社例祭 7月 7日 牛石藤鞭社例祭 10日 鹽竈神社例祭 8月 1日 曲木神社例祭 9月 1日 御神田拔穂祭 29日 志波彦神社遷座記念祭 10月 5日 献茶祭（裏千家） 中旬 鹽竈神社講社大祭 17日 神嘗祭当日祭 11月 3日 明治祭 中旬 七五三詣 23日 新嘗祭・初穂曳 12月 1日 嘉津良比祭 23日 大蔵祭 29日 大蔵祭・除夜祭 毎月 1日 朔日祭 10日 鹽竈神社月次祭 29日 志波彦神社月次祭

祈祷・神前結婚式

安産守護・安産御礼(初宮詣)・延命長寿・海上安全・大漁満足・家内安全・交通安全・厄除けなどの祈願のほか、神前結婚式を執り行なっております。

●個人の祈祷Ⅱ五、〇〇〇円以上の初穂料。

●神楽祈祷Ⅱ別に定める規定により、巫女神楽舞を奉奏致します。

●団体の祈祷Ⅱ特別の取扱を致しますから
●神前結婚式Ⅱ受付で御相談下さい。

※御祈願を郵便にてお申込の場合は、

祈祷執行の上神符神饌を送付致します。

尚、御送金は現金書留または郵便振替

(〇二二〇〇一八八一七四)を御利用下さい。

鹽竈講社

鹽竈講社は、『しおがまさま』を崇敬され、心のよりどころとして、一年清々しいお気持ちで御家族一同健やかに過ごせることを願う皆様の集いです。鹽竈講社に入講されますと、毎朝神前にて日供を奉り、御家族皆様の家内安全・家業繁栄を祈願致しますとともに、毎年、秋の「講社大祭」に御招待申し上げます。講員皆様の諸願成就特別祈願を執り行ないます。



鹽竈神社博物館

鹽竈神社博物館は、氏子三祭で御神幸される神輿や人々の信仰をつたえる御神宝類をはじめ、数々の文化財、御祭神にゆかりの深い製塩・漁業に関するおよそ五、〇〇〇点の資料を展示しております。

観覧時間

午前八時三十分より

午後四時三十分まで

午後四時まで

午後五時まで

二月・三月・
十月・十一月
一月・十二月

四月～九月

※年中無休。

但し、展示替えなどの都合により臨時に休館する場合があります。

入館料

大人 二〇〇円

中高生 一五〇円

小学生 八〇円

団体 二〇名以上割引

※特別展の入館料はそのつど定めます。





陸奥国一之宮



陸奥神社（しほがまじんじや）



古くより、東北鎮護・陸奥国一之宮として
朝廷をはじめとする崇敬をあつめ、
別宮に鹽土老翁神（しほつちおちのかみ）・左宮に武甕槌神（たけみかづちのかみ）
右宮に経津主神（ふつぬしのかみ）をお祀りしております。
広く武運長久の神として、また、塩業や漁業の守護、
家内安全・延命長寿・交通安全・厄除け、
とりわけ安産守護の神として全国津々浦々より信仰されています。



延喜式内名神大社

志波彦神社（しはひこじんじや）

平安時代の『延喜式神名帳』（政府の神社台帳）に
陸奥国百座中の「名神大社」として記載され、
鹽竈の神に御協力されたと伝えられる
志波彦神（しはひこのかみ）をお祀りしております。
農業守護・国土開発・殖産の神として崇敬されています。

しあわせな家庭と、元気なわが子と……

さまざまな熱い願いが集まる『しほがまさま』。

おごそかな御神域に、拍手の音がこだまします。

